

「簡易チキリヒズミ計」開発による畳表のタルミ防止

県農業試験場八代支場 い草加工部(現、農研センターい草研究所加工部)

研究のねらい

タルミが原因で消費地から返品された畳表は、昭和62年度で全体の3.2%であった。畳表タルミの原因としては、経糸、チキリ、整経方法、織込重量、製畳方法等種々の要因があげられるが、チキリヒズミ計を開発し、タルミの発生防止を図る。

研究の成果

1. 畳表のタルミ発生は、チキリのヒズミに起因することが予想されたので、簡易チキリヒズミ計を開発した。
2. 簡易チキリヒズミ計は、ローラー式センサーをチキリの円周面に接触させ、100分の1mmまでのヒズミを測定できる。
3. チキリに5mm以上のヒズミがあれば、製織直後と畳表敷込み後の高湿条件下で畳表にタルミが発生する。
4. 畳表のタルミ防止の点から、チキリのヒズミについて定期的に診断する必要がある。
5. ヒズミの大きいチキリは更新を必要とするが、軽いものは旋盤加工によってヒズミを修整したうえで使用する。

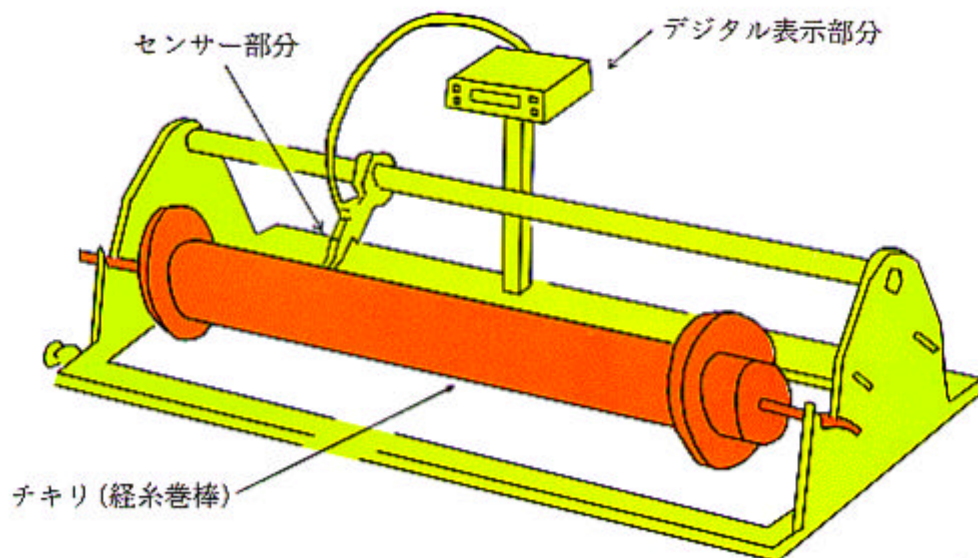


図 簡易チキリヒズミ計

表 1 チキリのヒズミと畳表のタルミ発生

ヒズミの程度	タルミ発生の有無	畳表織込重量(kg)	いぐさ織込本数(本)
大	有	1.59	4,533
軽度	無	1.59	4,545
微	無	1.58	4,510

(注)畳表は綿三種